

◆◆◆◆◆トピックス（上都賀地方のこの一年）◆◆◆◆◆

【農福連携の取組強化】

上都賀地域の活性化と多様な人材の農業への参画を目的とした、いちご生産における農福連携の拡大に向け、令和3年度から「農×福×苺プロジェクト」に取り組んでいます。

令和4(2022)年度は、管内いちご生産者のほ場において、生産者や福祉施設、関係機関18名参加のもと、実践農業見学会を実施しました。質問や意見交換が積極的に行われ、農福連携についてより具体的なイメージを持つことに繋がりました。

今後も、先進事例調査やセミナーでの事例紹介などを行い、市や関係機関・団体等と連携しながら、いちご生産における農福連携の作業項目拡大を支援していきます。



作業見学の様子



質疑応答の様子

【地域活性化組織が新たな交流拠点を整備】

鹿沼市加蘇地区で活動する「加蘇地区ふるさとづくり協議会」は、地域のベテランや若者、女性達が活躍する組織です。令和2(2020)年度からNPO法人やボランティア等の外部人材と連携し、地域の新たな交流拠点とするべく耕作放棄地の解消に取り組んできました。

令和4(2022)年12月11日には、交流拠点「カソトモの森パーク」のオープニングイベントが開催され、ブランコやシーソーなどの手作り遊具で遊ぶ子どもたちの姿が見られました。

今後は、「カソトモの森パーク」を活用し、加蘇地域の魅力を満喫できるような都市農村交流活動を展開していく予定です。



耕作放棄地の整備



「カソトモの森パーク」で遊ぶ子ども達

【農業者と観光事業者が連携した日光そばの魅力発信】

観光客に日光の”そば”の魅力伝えるため、地域のそば振興団体「日光手打ちそばの会」が鬼怒川温泉にあるホテルと連携して新たな農業体験プログラムを実施しました。

ホテルロビーで催した同会による「そば打ち」の実演では、多くの宿泊客が足を止め、職人技に見入っていました。また、手打ちそばは「夜鳴き蕎麦」として宿泊客に提供されました。今後も観光事業者と連携した上都賀地域の“そば”の魅力を発信していきます。



宿泊客でにぎわうPRブース



そば打ちの実演

【持続的な地域農業の実現に向け「南押原地区の農業を考える会」を開催】

持続的な地域農業の実現に向け、地域の多様な人材（農業者、農業委員、多面的機能支払活動組織、土地改良区など）が集まり、話し合いが行われました。

話し合いは、ワークショップ形式で行われ、「整備事業やスマート農業導入による省力化・低コスト化」、「子ども達への教育等を通じた地域農業の活性化」等が方針案として決定されました。今後は、地域計画策定に向けた話し合いの中で、方針の実現を進めていきます。



話し合いの様子



グループ毎に方針案を発表

【いちご、にら栽培体験会の参加者増加！】

新規就農者の確保に向けて、いちご、にらの定植や収穫・調整作業、先輩農業者との意見交換等を行う栽培体験会を開催しました。

令和4(2022)年度には4回開催し、その結果、にら体験会の参加者が増加するなど、県内外から延べ33名が参加しました。

引き続き関係機関と連携し、募集期間の前倒しや各種HP・広報誌により周知を図り、新規就農者の確保に向けた普及活動を展開します。



鹿沼市にら収穫調整体験



日光市にら農家ほ場見学

【かみつが農業女子ネットワークの活動推進】

女性農業者がより一層活躍し、経営に参画できる環境整備を進めるため、令和3(2021)年12月から意欲ある女性農業者6名によるネットワーク「かみつが農業女子」が活動しています。

SNSを活用して情報交換を実施し、メンバーの課題解決を支援しました。また、交流会や雇用に関する研修会を開催し、経営参画の実践を支援しました。

メンバーの拡充を図るとともに、SNSを活用したミーティングや研修会・交流会をとおして、引き続き女性の経営参画を支援していきます。



かみつが農業女子結成



交流会の様子

【にらの「1年1作連続収穫作型」の実証】

上都賀地方のにらは「2年1作作型」です。にら栽培で単収を高めるための一つの手法に「1年1作連続収穫作型」がありますが、技術的に課題が多く、導入されておりません。特に、早期から出荷するためには、9月から10月の収穫期に病害虫（アザミウマ類）の防除が必要になります。本法では、「防虫ネットなどの資材を活用したアザミウマ類対策」を併せ、実証試験を行いました。

その結果、アザミウマ類の物理的防除や農薬散布により、食害がないにらが出荷可能となり、収量は5.0t/10aを確保できましたが、生育後半の生育停滞が課題となりました。

導入拡大に向け、今後も本法の検討を継続していきます。



ハウス内の物理的防除の状況



アザミウマ類の食害（左：従来 右：本法）

【いちご「とちあいか」導入推進】

令和4(2022)年度は、60名、8.6haで「とちあいか」が栽培され、今後も生産者の増加が見込まれる中、上都賀農業振興事務所では安定栽培技術の普及を進めています。

栽培マニュアルの徹底に加え、ICT機器を活用して優良農家のハウス内環境データを見える化し、自身のハウスと比較可能にしたことなどにより、栽培技術が向上し、出荷量の増加や品質向上が図られました。

今後は、「とちあいか未来創りサポートチーム」によるきめ細かな支援に加え、ICT機器の導入も進め、「とちあいか」の安定生産を進めていきます。



「とちあいか」の栽培状況



「とちあいか」現地検討会の様子

【鶏糞を活用した大豆の狭畦栽培によりグリーンな栽培体系への転換を実証】

鹿沼市の農業生産法人では、麦後に大豆を作付ける体系であるため、播種時期の遅れによる減収が課題でした。また、化成肥料の高騰対策として、有機質肥料への転換も検討されていました。

遅播き時の狭畦栽培、鶏糞ペレットの施用、一発耕起播種機による省力化を実証する展示ほを設置し、化成肥料から鶏糞ペレットに全量代替しても県平均単収より多収を実現できました。

今後は、土壌分析の結果（可給態窒素含量等）に応じた鶏糞ペレット施用量の調整を行うことが必要になります。



一発耕起播種機による播種作業



狭畦栽培の圃場（R4.8.18）

【課題と推進対象、目標を明確化し、さといも推進2nd ステージが始動】

上都賀地域は、古くから県内でもさといも栽培が盛んな地域です。しかし、近年は高齢化などの理由で、栽培者・面積は減少傾向にあります。

「さといも推進2nd ステージ」を立ち上げ、所内の連携を強め、土地改良区と水稻農家へのさといもの作付拡大を推進する体制を強化しました。令和4年度は、機械化一貫体系の普及による省力化及び規模拡大を目的に収穫実演会を開催しました。

今後は、引き続き土地改良区への面的推進と水稻農家への個別巡回を軸に、機械実演会・研修会を開催して更なる推進を図ります。



収穫実演会の様子



土地改良区への説明会

【ほ場整備に向けて営農検討部会設立～営農構想検討を開始～】

ほ場整備の事業化を進めている鹿沼市玉田地区、西茂呂地区及び日光市轟地区の3地区において、担い手を中心に営農検討部会を立ち上げました。

今年度は、企画振興部や経営普及部とともに、アンケート調査やワークショップ手法による話し合いを行うとともに、地域の実情を踏まえ、先進地を視察し、いちごやさといもの導入に向けた営農構想作りを支援しました。

今後とも地域に根ざした営農構想作りを促進させ、新規ほ場整備地区を推進していきます。



海道地区を視察する玉田地区の担い手



轟地区のワークショップ

【千渡土地改良区の設立と農地整備事業千渡地区の事業開始】

令和4年8月30日に、鹿沼市千渡地区において千渡土地改良区が設立され、千渡地区の農地整備事業が開始されました。

令和4年度は、事業区域を決める地区界確定業務などが行われ、今後は、換地計画原案の作成など、工事実施に向けた作業が進められます。

また、担い手への農地利用の集積・集約化や、水田を活用した露地野菜（さといも等）などの土地利用型園芸の生産拡大を推進していきます。



設立総会の様子



地区界立会いの様子